

第1回岐阜県慢性腎臓病対策推進協議会

- 1 日 時 令和5年6月22日(木) 14時～15時30分
 2 方 法 OKBふれあい会館405会議室、オンライン
 3 出席者 委員11名、事務局4名

	所属	役職	氏名	役割	備考
1	岐阜県総合医療センター	腎臓内科部長	村田 一知朗	日本腎臓病協会 慢性腎臓病対策部会岐阜代表	会場
2	岐阜県医師会	常務理事	西野 好則	岐阜県医師会	オンライン
3	岐阜大学医学部附属病院	腎臓内科臨床講師	吉田 学郎	腎臓病専門医	オンライン
4	大垣市民病院 岐阜県糖尿病対策推進協議会	副院長 幹事	傍島 裕司	腎臓病専門医 糖尿病専門医	オンライン
5	岐阜大学大学院医学系研究科 糖尿病・内 分泌代謝内科学／膠原病・免疫内科学 岐阜県糖尿病対策推進協議会	教授 副会長	矢部 大介	糖尿病専門医	オンライン
6	岐阜県薬剤師会	副会長	棚瀬 友啓	岐阜県薬剤師会代表	オンライン
7	岐阜県看護協会	会長	青木 京子	看護師会代表	オンライン
8	岐阜県栄養士会	会長	長屋 紀美江	栄養士会代表	オンライン
9	特定非営利活動法人 岐阜県腎臓病協議会	会長	田中 和博	患者代表	欠席
10	全国健康保険協会岐阜支部	保健師	作倉 かおり	医療保険者代表	会場
11	体育健康課	課長補佐	阪野 きよみ	学校保健代表	欠席
12	瑞穂市	保健師	堀 祐紀恵	市町村保健師代表 (モデル地域代表)	会場
13	東濃保健所	所長	中村 俊之	保健所長会代表	オンライン

事務局

14	岐阜県健康福祉部	課長	井上 玲子	
15	保健医療課	係長	山本 敦弘	
16		技術主査	濱塚 久美	
17		技術主査	小川 麻里子	

3. 内容

- 1) あいさつ
 2) 議事

(1) 岐阜県における慢性腎臓病対策及び関係団体の取組みについて

- ・年度末には、4つのモデル地域から取組成果を報告してもらい、各地域の取組みにつなげていく。
- ・腎臓シールは全国で作成されているが、GFR グラフを作成する都道府県は少なく、この啓発をきっかけにしたいと考えている。医薬連携として、まずは病院内連携で GFR グラフと腎臓シールの活用を進めて、患者さんへの普及啓発を始めていく。
- ・看護職員に対する研修は定期的に開催しているが、看護職が GF グラフ等をどの程度、認知できているのかは疑問であり、研修の中で看護職に広げたい。

- ・腎臓シールは、色で段階が分かれているため分かりやすい。どうしても、次の治療につなげるとか、指導につなげたいと思い、腎機能が悪い色のシールに目がいきがちになるが、患者さんへの啓発では次の段階に進まないよう、また健診を受けられた方への啓発では、異常がないという緑を維持していただくような、自分の健康に目を向けてもらえる意味で大変有効。
- ・市町村での受診勧奨は難航している印象がある。県のCKD連携フローでは、健診からの受診勧奨値がGFR60未満又は尿蛋白+以上と示されたが、この基準での連携は難しく、地域の実情に応じた連携基準を各地域で検討する必要があると感じる。
- ・県で作成した精査依頼書を使用するクリニックには偏りがあるが、対策の継続により徐々に広がっていくとよい。
- ・地域での勉強会や講演会を企画し、かかりつけ医への啓発を広げていきたい。

(2) 第8期保健医療計画及び第4次ヘルスプランぎふ21の策定について

- ・認知度を上げるということも大事だが、実際に患者さんへ介入していくことが実効的なことになるため、保健指導がどのくらい実施できたか、健診から受診に結びついた数などの具体的な数値を指標にしていくとよい。
- ・慢性腎臓病は、いかに早期発見・早期予防が重要であり、ライフサイクル、各世代に応じて広く、血圧などの意識づけしていくこと取組みが非常に重要である。
- ・糸球体腎炎は、健診での早期発見が進んでおり、学生の段階で介入する体制ができています。
- ・70、80代の方で、高血圧と加齢のみでCKD、末期腎不全、腎硬化症が増えている。この時点で治療するのではなく、もっと早い段階から介入が進めば、その方の人生は違っていたと常々感じる。若い時から血圧が高いことは知っていても、治療は40代や50代、最近になってからという方も多い。いかに早い段階で、高血圧や糖尿病などを認知してもらい、早く治療に入っていただくこと大事である。
- ・75歳以上の透析患者が半数を占めているが、その半数は生活習慣病が積み重なり動脈硬化を起こして、腎臓が悪くなり透析導入となる。腎臓教育入院や栄養教育、生活教育を20代、30代で実施することが理想だが、悪くなってから受れたり、危機感を持ってから受けるという現状があり、体制を考える上で今後の課題である。